こうとう民報
２０１９年１０月号 No.179
江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発　行
こうとう民報編集委員会
責任者　猪又　武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

消費税５％に戻して景気回復を！

《地域労組 こうとう》
仲間を増やし 定期大会を迎える

全労連地域労働組合こうとう第11回定期大会が、９月28日、亀戸文化センターで開かれました。

川村好正書記長は「２０１８年度経過と総括」提案の中で、困難にひるまず奮闘した結果、20人を超す増勢で大会を迎えたことを報告、参加者は大きな拍手でこたえました。

さらに、今年度の増勢の特徴は、仲間を増やす活動の担い手が増えたことで、労働相談を通じた個人加入だけでなく、事業所単位の加入があったことが報告されました。

また川村書記長は、「２０１９年度活動方針案」提案のなかで、職場・地域から「ひとりぼっちの労働者をなくす」ことをめざし、今後は特に区内に多い医療職場での組合づくりを提起しました。

大会はすべての議案を採択し、２０１９年度役員を選出。新野好雄（にいのよしお）執行委員長、川村好正書記長ほかすべての役員は留任。執行委員は、大会議長を務めた若手１人を補充して８人体制となりました。

台風19号
これでいいのか 江東区の防災対策
日本共産党江東地区委員会

各地で甚大な被害を出した台風19号。江東区内では、３人が軽傷、区が管理する街路樹は18本が倒木。有明、新木場、東陽、潮見など２３００軒が停電。その他、看板の落下、屋根瓦の損壊などがありました。

さらに、荒川の水位上昇のため「避難勧告」が亀戸、大島、東砂、北砂地域に出され、避難所23か所と文化センターなどの自主避難施設９か所に約７０００人が避難しました。

日本共産党江東地区委員会と都議、区議団、区政対策委員、支部の党員らが台風のなか区内を見回ると共に、区が開設した避難所の紹介、訪問を行い、被災状況を確認して必要な措置につなげる行動に奔走しました。

救援募金を呼びかける党員

その結果、現時点での問題点や今後に生かすべきことが浮き彫りになっています。

江東区では、江戸川区の対応と比べても、初動対応に問題があったと思われます。

住民からは「防災無線がよく聞き取れなかった」「突然の避難勧告で驚いた」「避難しようとしたが、避難所がわからなかった」「ペットの受け入れができないといわれて自宅に留まった」などの声が寄せられました。

避難所ごとに備蓄内容の格差も大きく、毛布やマットが不足している所もありました。

避難勧告のあった地域の小中学校の避難所は、指揮系統や現場での判断力に難点があり、水害には１階の体育館では危険だという認識がないことは重大です。

また、区のホームページはアクセス集中で閲覧が困難でした。危機管理室からのメールはスマホ・携帯電話を持っていない人には避難勧告がわからなかったようです。

住民らと共に避難した亀戸在住の区政対策委員・大滝通さんは、避難所運営の改善点を実感したこと、区の緊急メールには開設している避難所の場所も入れるべきなど、今後の課題を強調しています。

議会報告

「10％増税を直ちに中止し、５％に戻し景気回復を！」と訴える大つきかおり区議。

第３回定例会では、平成30年度決算審査特別委員会が開かれました。

昨年度、江東区は国保・介護保険・後期高齢者医療の保険料値上げを強行しました。

さらに７００人以上が利用している高齢者福祉電話事業の新規受付を中止、寝たきりの高齢者が介護施設を利用する際に助成していた送迎費助成事業（一昨年度実績８６９回）や住吉児童会館を廃止し民営化し、区民サービスを後退させ低賃金の不安定雇用を増大させてきました。

《第３回定例会 平成30年度決算》
区民負担増と福祉削減で基金ため込み
区政史上最高 １３６６億円

一方、区民に負担増と福祉削減を押し付けながら、ため込んだ基金の総額は１３５億円増の１３６６億円と区政史上最高を今年も更新しました。

くらし応援に転換を

共産党区議団は、過度なため込みは見直し、消費税の増税等で厳しさを増している区内中小企業に対する支援拡充や、頻発する自然災害に備えて感震ブレーカーの設置助成など防災対策の充実、認可保育園の増設や医療・介護の負担の軽減を求め、平成30年度決算の認定に反対しました。

潮騒

炎暑の夏からの爽やかな涼秋の候に、日本列島は三つの大災害に襲われました▼その一、安倍政権による二度目、消費税10％への増税です。公明党が推した「軽減税率」も対応しきれない商店を廃業に追い込んでいます。社会保障充実どころか、政府の審議会ではもう医療・介護などの負担増を企てています▼その二、またも首都圏を直撃した台風19号。乱開発やＣＯ２排出への「自然の復讐」は空前の猛威でほとんどの河川を氾濫させ、堤防決壊。多くの人命、膨大な資産が失われ、12県３０８市町村が洪水、土砂崩れで災害救助法の対象になる惨状です。温暖化の危機を身近に感じます▼国連での地球規模の気候変動対策で具体的な行動を提起する会議で、スウェーデンの高校生グレタさんが政治家たちに辛辣な発言をしましたが、対照的に日本の小泉環境大臣は、記者の質問に答えられず立往生の醜態でした▼その三、トランプ大統領が「大勝利」と誇示した日米貿易協定。米国製武器の爆買いに続いて、牛肉の関税は38・5％から段階的に９％へ、米の輸入枠をはずし、余剰トウモロコシ輸入促進。一方、日本車の関税は据え置きなど、誰がみても亡国の協定です。国土の荒廃と経済も外交も破綻させて顧みない政治を変えることが、焦眉の国民的課題です。

改訂 江東風土記抄 (15)

第1部　深川北西部

間宮林蔵（1775～1844）

（間宮林蔵 肖像）

「間宮海峡」に名をとどめた間宮林蔵は、1775(安永4)年、茨城の上平柳村の農家に生まれました。幼時から数学に優れ、隣村の土木工事の際、堰の組み方についての意見が普請役を驚かせます。房総を巡回していた村上島之允に伴われ、江戸に出たのは寛政の初めでした。

ロシアが日本に通商を求めたのは、1792(寛政4)年。幕府が1799(寛政11)年に蝦夷地御用掛を任命して巡回させることになり、同行した島之允と林蔵は初めて蝦夷地に渡りました。翌年、御用掛となる林蔵は、蝦夷地を測量していた伊能忠敬に会い、師弟の関係を結びました。

1807(文化4)年、幕府は世界地図作成を天文方の高橋景保に命じ、景保はカラフト探検に林蔵を推薦します。未知の土地をたどり、対岸のシベリアにも渡り、カラフトが島であることを確かめた、長期の困難な探検から戻った林蔵の指は凍傷にかかり腐っていました。

1811(文化8)年に江戸に帰った林蔵の報告で、景保は画期的な「新訂万国全図」の銅版画を作成、伊能の「大日本沿海輿地全図」にもその資料が役立ち、林蔵はその功績で支配調役下役格になり、30俵3人扶持を与えられました。

晩年の林蔵は、幕府の隠密となり、1823(文政6)年頃から深川に住んだようです。この年、幕府の儒官である古賀洞庵は「深川」の林蔵宅に、その後、何人かが「木場」や「冬木町」、「蛤町」の隠宅を訪ねていました。

林蔵は隠密として皮肉にも、カラフト探検や間宮海峡の名を世界に広めてくれたシーボルトを告発し、シーボルトの国外追放と景保の獄死という結果を招きました。

淋しい晩年を過ごした林蔵は、1844(弘化元)年、蛤町で70歳の生涯を終えました。

(注) シーボルトは帰国の時、禁止されていた日本地図を持っていたので、再入国禁止の処分を受けました。

安倍9条改憲を止めよう！

江東市民連合などが亀戸駅前で署名宣伝

10月6日亀戸駅北口では、宇都宮健児弁護士をはじめ江東市民連合、下町亀戸9条の会、新婦人の会など14人が、「3000万人署名」に取り組みました。寄せられた署名は35筆。

亀戸天神を訪れたという江戸川区や墨田区から来られた方が、宇都宮弁護士の訴えに耳を傾け署名をしていました。

9条改憲NO! 3000万 署名

《区労連青年部 第19回定期総会》 青年どうしのつながりを！

江東区労連青年部第19回定期総会が、10月5日に江東区文化センターで開かれました。

総会は、2018年度活動報告と19年度活動方針案提案の後、二つの分散会に分かれ、労働組合青年部の役割について討論しました。

分散会では、青年が労組に加入する動機はさまざまで、職場に何らかのトラブルがあり、その解決のために加入してくるだけでなく、悩みを共有できる「居場所」になっていることが、各自の体験から語られました。

この大切な「居場所」を実りあるものとするためには、賃金や労働問題などの学習を積み重ねることや、色々な職種の青年労働者との体験を共有できるよう、イベントや交流会を開くことなどを通じて、青年どうしのつながりをつくり出していく重要性がこもごも語られました。

総会は、すべての議案を採択し、松井優希青年部長(留任)ほかの役員が選出されました。

「合唱団この灯」が演奏会

74年前の東京大空襲を主テーマに 団員作詞の新曲「親子じぞう」も

江東区民の団員も多い「合唱団この灯」は10月14日、東京大空襲を主テーマにし、「明日につなげる平和の願いを込めた」2019演奏会を開催。会場の江東区文化センターホールは511の席が溢れる盛況でした。

同合唱団の前身は「燃える川合唱団」で、1991年の創立から28年目になります。

団員数60人は全国のうたごえ運動のグループの中でも最多の規模。高齢で退団する人がいる半面、「催しをするたびに団員が少しずつ増えています」と演奏会準備の団員メンバーが教えてくれました。

今回の演奏会は三部構成の最後が「東京大空襲をうたう」。東陽町駅近くの路地にある、3月10日の大空襲で亡くなった子を悼んで子どもを抱く地蔵が祀られている「親子地蔵尊」に着目した団員が作詞した創作曲「親子じぞう」が、子どもたちも登壇した合唱で披露されました。

「健康吹き矢」体験会

心肺機能を高め、体幹鍛える効果も

新日本婦人の会江東支部は、多彩に活動しているサークル活動の一環として、「健康吹き矢」を区内各所の区民館などで定期的に開催しています。特別な体力は必要なく、健康にもプラスになると聞き、10月10日江東区文化センターでの開催に本紙記者が体験取材をしてきました。

1メートルある筒を的の同心円に向けて、背筋を伸ばして息を「フッ」。20cmくらいの矢が飛んで5～6m先に「ピシッ」と当たると、何となく良い気持ちになります。

的の小さな中心が10点で、外側へ7点、5点、3点、1点です。矢5本が1回分で、交替で5回試みます。合計で100点を超えると「すごい」と声が上がります。

競技前には、口やあごの準備運動で声を出したりマッサージしたり、大きく息を鼻から吸って倍の時間で口から息を吐くなどもします。普段は使わない筋肉が刺激されていることがわかります。

毎月区内各地で楽しく開催中！

同支部の木村登美江事務局長は「1年半前から開催しています。毎月1回、土曜日の大島四丁目団地には10数人が参加し、南砂や豊洲でも毎回楽しんでいます。姿勢を意識するので、体幹も鍛えて健康への効果がありますから、気軽に参加して下さい」と話しています。

新婦人江東支部
TEL 3646・4297

☆ 行事日程 ☆

○11月3日（日）11時～12時
◆江東市民連合 憲法公布記念総行動
（門前仲町、西大島）

○11月7日（木）18時30分～
◆江東革新懇秋の講演のタベ
「浜矩子さん大いに語る」（テイアラこうとう）

○11月20日（水）
①10時15分～②13時15分～③18時45分～
◆きょうされん40周年記念映画「星に語りて」上映会（江東区文化センター大ホール）
後援：江東区・区社協（一般千円、障害者・介助者・65歳以上・小中高生5百円）

○11月23日（土・祝）10時～
◆ゆたかな高齢期をめざす江東のつどい
講師：藤田孝典氏　参加資料代：3百円
（江東区文化センター）

○11月25日（月）17時～（東大島駅前）
◆消費税増税反対江東各界連絡会署名活動

○11月26日（火）総合区民センター
○11月27日（水）江東民商事務所1・2階
両日とも13時30分～16時
◆江東民商なんでも相談会